

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：11302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520563

研究課題名(和文)日本語学習者の読解を困難にする要因の解明とそのモデル化

研究課題名(英文)A study of Reading Comprehension Difficulties of Learners of Japanese

研究代表者

高橋 亜紀子(TAKAHASHI, AKIKO)

宮城教育大学・国際理解教育研究センター・准教授

研究者番号：10333767

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：留学生にとって読解は重要なスキルである。読解指導を効果的に行うためには、留学生が日本語の文章を読む際にどのような問題点を抱えているのかを明らかにする必要がある。そこで、本研究では、(1)再生課題が与えられたとき、中級～上級の日本語学習者はどのような内容を報告するのか、(2)その過程においてどのような困難点があるのかを調査した。その結果、文章中の重要な情報については選択して再生することはできるが、日本語レベルによってその再生内容が異なることが分かった。困難点としては、文章構造の把握や内容の整理など理解した内容をまとめること、語や文、文章レベルの問題が文章理解を難しくしていることが分かった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to investigate the difficulties of reading comprehension in learners of Japanese. The two goals of this study were follows: (1) Can learners recall the main idea from the text? (2) What kind of difficulties do they have? Lower-intermediate, intermediate and advanced Learners were assigned to read a text and recall the text by rewriting or by orally it in Japanese. The data was collected and analyzed. The results indicate that learners can recall the most important main idea at the top level of structure of the text and supporting idea at the lower level of structure, but it is not easy for them to judge the importance of a main idea unit connection at second or third structure level. The results also indicate that there were many difficulties which includes word meaning, grammar, expressions, demonstratives, text structure, etc. It was also difficult to form the coherent representation of the text, especially for the lower-intermediate learners.

研究分野：日本語教育学

キーワード：読解 困難 日本語学習者 中級 再生課題

1. 研究開始当初の背景

日本の大学や大学院で学ぶ留学生(中上級の日本語学習者)にとって、読解は重要なスキルである。留学生の多くは、学習や研究の成果として、日本語でレポートや論文を書かなければならない。このレポートや論文作成の前提となるのが、大量の文献や資料から必要な情報を読み取る、読解能力である。また、インターネットの普及により、印刷物だけではなく、ウェブ上からも関連する情報を読み取る能力が必要である。

しかし、留学生が日本語学習にさくことができる時間は限られている。最近ではピアリーディングなどの新しい試みも行われるようになってきたが、日本語の授業では、依然として文法や語彙、文章の正確な理解などの基礎的学習に留まっており、大学で必要となる実践的読解力を養成するための教材や指導法の開発が必要である。

そのためには、大学で学ぶ留学生、すなわち、中～上級の日本語学習者が、読解をするとき、どこで、何に、どのようにつまづいているのかを解明する必要がある。しかし、読解には、文章材料に関する要因や課題設定に関する要因、読み手側の要因など複数の要因が互いに深く関係し合っており、これらの要因がどのように文章理解と関わるかについては解明されていない。本研究の構想段階ではこうした要因間の関係性を示すモデルを構築することを目指していたが、実際には条件を統制したうえで膨大なデータを収集する必要があり、実現が難しい。

そこで、本研究では、まず、再生課題に限定して様々な学習者からデータを収集し、読み手が課題遂行上で遭遇する困難点を明らかにする。そして、モデルを構築するための基礎資料とすることを目指す。

2. 研究の目的

本研究では、再生課題を用いて、日本語学習者の読解の困難点を明らかにし、読解困難点のモデルを構築するための基礎資料とする。

(1) 再生課題が与えられたとき、日本語学習者はどのような内容を報告するのか。

(2) その過程においてどのような困難点があるのか。

再生課題を設定したのは、大学で学ぶ中上級の日本語学習者にとって、ある文章を読んでその内容を理解して報告することは現実的に必要な課題だからである。本研究の意義は、現実的な課題を遂行する過程で、実際にどのような困難点があるかを明らかにすることは指導にも役立つことにある。

3. 研究の方法

対象としたのは、中級～上級の日本語学習者及び日本語母語話者である。調査には、文章を読んでその内容を口頭または筆記で報

告してもらうという再生課題を用いた。なお、調査は主に日本語で実施した。これは日本で学ぶ留学生には、現実的に日本語で行うことが求められるからである。調査に用いた文章は学習者のレベルに合わせて用意した。また、中級の学習者については、困難点をより詳細に調べるためインタビュー調査も行った。

分析にあたって、まず、調査に用いた文章をあらかじめアイデアユニット(IU)に分けておく。次に、IUを文章の中の最も重要な内容、次に重要な内容、重要ではない内容との3つに分けておく。そして、再生課題で得られたものを書き起こし、プロトコルデータを作成する。このデータとIUとを照合し、意味内容が一致していれば再生したものとしてカウントし、再生率を求める。そのほか、インタビューで得られたデータ等についてもすべて書き起こし、学習者が読解中に難しい、困難であると申告したところもすべてリストアップした。

4. 研究成果

(1) 日本語母語話者14名と日本語学習者10名の筆記再生課題を比較すると、日本語学習者は文章中の最も重要な情報は再生できていたが、その次に重要な情報よりもあまり重要ではない部分を多く再生していた。また、前半部分の再生が中心で、後半部分の再生が少なかった。このことから、日本語学習者は文章を読みながら、重要な情報は取り出すことができる一方、詳細な情報が重要な情報とどのような関係があるのかを把握することや、前半部分に書かれていた内容の整理が十分にできないままに後半部分を読み続けることが結果的に認知的負担を高めることになること、などの問題点が分かった。そのほかにも、自分の読み誤りに気づかない、単語や文が理解できていても推測できない、などの問題点も見られた。

(2) 日本語母語話者5名、日本語学習者上級10名、中級5名の再話課題を比較すると、(1)の結果と同様に、日本語学習者は最も重要な情報は再生できていたが、中級学習者のほうが重要ではない情報を再生する傾向が見られた。重要ではない詳細情報と重要な情報との関連性を考えて再生することは困難である。このことから、学習者は文章の全体構造の把握が困難であると考えられる。

(3) 中・中上・上級の日本語学習者8名に文章構造の図式化とそれをもとに再話するという課題を課した。その結果、上級の学習者ほど、シンプルな文章構造図を作成し、その図をもとに重要な情報を自分の言葉で再生することができた。一方、中級の学習者は文章構造の把握も困難で、重要な情報よりも重要ではない、詳細な情報を取り出してしまいうことが分かった。

(4) 中級の日本語学習者5名を対象に5つの文章についてそれぞれ再話をしてもらった。その結果、最も重要な情報の再生率が高いが、再生率そのものが非常に低い学習者もいることが分かった。また、再生率が低い学習者ほど内容理解度のスコアも低かった。再生率が低い学習者が読んでいる過程の観察やインタビューを行った結果から、読むスピードが非常に遅いこと、分からないところをそのまま放置すること、文章構造の知識を利用して大胆に解決しようとする、既存知識だけを用いて理解しようとするために誤った理解になること、などの様々な問題点が明らかになった。一方、再生率が高い学習者は、テーマや重要な情報を用いて文章内容を理解しようとしており、既存知識のみに頼らず、文章内容と自分の理解とのモニタリングを絶えず行っていることが分かった。そのほかに、インタビューの結果から、文章を理解する上で問題となることは、以下の3つに分けられることが分かった。語レベルの問題点；未知語の意味、漢字の読み方など、文レベルの問題点；指示語や文法、主語の省略など、文章レベルの問題点；キーワードや段落間の関係把握など、である。漢字圏の学習者は、ひらがなやカタカナで書かれた単語を認識することや再話する際に漢字の読み方が分からないことが問題になることも分かった。

以上より、(1) 再生課題が与えられたとき、日本語学習者はどのような内容を報告するのかについては、文章中の重要な情報については選択して再生することはできるが、学習者の日本語レベルによって、その再生内容が異なることが分かった。

また、(2) その過程においてどのような困難点があるのかについては、文章構造の把握や文章内容の整理など、理解した内容をまとめていく際の困難点と、文章を理解するための語や文、文章レベルでの困難点の両方が見られることが分かった。

このように、再生課題という課題を遂行するにあたって、学習者には様々な問題点が見られた。特に、中級や中上級の学習者には、支援が必要である。

Kintsch(1998)の読解モデル(図1)によれば、読み手は小さな意味のまとまり「命題」から局所的な構造(マイクロ構造)を構築し、マイクロ構造同士を互いに関連付け、階層的に統合することによって、全体的な構造(マクロ構造)を構築していくという。

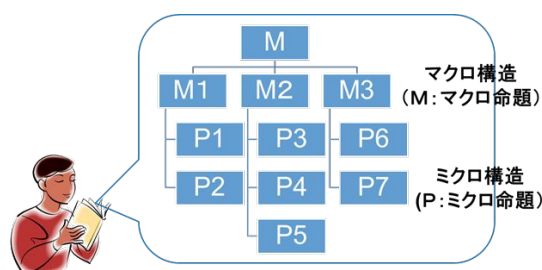


図1 テキストの階層性(Kintsch,1998: 67をもとに作成)

本研究の結果をこのモデルに当てはめて考えると、母語話者は読解中にこのモデルの上位部分、M(マクロ構造)を中心とした構造図を頭の中に想定し、それをもとに再生することができると考えられる。一方、中級の学習者は、図1の上の部分、M(マクロ構造)、つまり最も重要な部分については再生できるが、それ以下の部分については、P(マイクロ構造)に相当する情報の再生が中心で、文章から得た情報を下から上へと結びつけていく、つまり情報を整理してまとめていくことが困難であると考えられる。

また、P(マイクロ構造)の部分の読み取りの際にも、語レベルや文レベルの読みの困難点がある。また、PからMを構築する際にも、段落間の関係把握などの問題点が見られる。さらに語や文のレベルの困難点がなかなか解決できずに内容が把握できないケースも見られた。

本研究で得られた成果は、国内外の学会等で発表し、論文の形で公表した。

読解の授業では、文法や語彙の学習のために文章を読む練習をするのではなく、文章の中から重要な情報を選び出し、それらをまとめて自分の言葉で伝えるような練習をしていくことが必要である。再生課題を課したことによって、全ての日本語学習者に文章中から重要な情報を得ようとする読みの姿勢が見られた。このような読みは自律した読み手には必要なことである。今後はさらに調査を行い、データを積み重ね、読解を困難にする要因間のモデルを構築していきたいと考えている。これが構築できれば、フローチャートのような形で、学習者への具体的な支援方法を提案できるようになるのではないかと考えている。また、困難点をもとにした教材開発にもつなげていきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

(1) 高橋亜紀子(2015)「文章の構造を図式化する課題に見られる中・上級日本語学習者

の問題点」『日本語教育方法研究会誌』
Vol22.No.1, pp.64-65. 査読なし

(2) 高橋亜紀子(2014)「筆記再生課題に見られる日本語学習者の読みの特徴」『文化』
第78巻第1・2号, pp.40-66. 査読あり

(3) 高橋亜紀子(2013)「日本語学習者と日本語母語話者の読解過程の比較」, CAJLE
2013 Proceedings, pp.269-280. 査読なし

(4) 高橋亜紀子(2012)「上級中国人日本語学習者の読解の問題点 - 再話・筆記再生タスクの分析を通して - 」『宮城教育大学紀要』
第47号, pp.357-371. 査読なし

〔学会発表〕(計5件)

(1) 高橋亜紀子(2015)「中級日本語学習者の再話課題に見られる読みの特徴と問題点」第26回第二言語習得研究会全国大会
2015年12月20日 東北大学(宮城県・仙台市)

(2) 高橋亜紀子(2015)
"Reading Comprehension Problems in Intermediate Learners of Japanese (中級日本語学習者の文章理解における問題点)" 第19回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム 2015年8月28日 ボルドー・モンテーニュ大学(フランス)

(3) 高橋亜紀子(2015)「文章の構造を図式化する課題に見られる中・上級日本語学習者の問題点」日本語教育方法研究会
2015年3月28日 学習院大学(東京都・豊島区)

(4) 高橋亜紀子(2014)「読解再話タスクの分析」Sydney International Conference on Japanese Language Education 2014
(ICJLE2014) シドニー日本語教育国際大会 2014年7月11日 シドニー

工科大学(オーストラリア)

(5) 高橋亜紀子(2013)「日本語学習者と日本語母語話者の読解過程の比較」
Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)
Annual Conference 2013
2013年8月23日 トロント大学(カナダ)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：
取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

6. 研究組織
(1) 研究代表者
高橋 亜紀子(TAKAHASHI AKIKO)
宮城教育大学・国際理解教育研究センター・
准教授
研究者番号：10333767